

平成 30 年度市政懇談会 開催議事録

開催日時：平成 30 年 6 月 20 日（水）午後 7 時～8 時 20 分

場 所：かさま歴史交流館井筒屋 3F 会議室

出席者：5 名

《フリートーク（意見交換）》

- 1 笠間稲荷門前通りから笠間城跡（佐白公園）までの整備について
- 2 かさま歴史交流館井筒屋の利活用方法について
- 3 東海第二発電所の災害時の避難誘導計画について
- 4 防犯カメラの設置について
- 5 小児科医など専門医について
- 6 近隣市町との観光における横の連携について
- 7 笠間つつじ公園と大池公園の景観について
- 8 民泊について

1 笠間稲荷門前通りから笠間城跡（佐白公園）までの整備について

【意見等】

かさま歴史交流館井筒屋がオープンして、笠間稲荷門前通りの景観が良くなった。さらに大石邸跡や佐白山麓公園まで整備されると一体感が出て良いと思うが、今後の整備予定について伺いたい。

【回答】

かさま歴史交流館井筒屋の周辺整備については、大石邸跡や笠間日動美術館を含めた一体的な遊歩道の整備を行っていきます。今年度は、井筒屋から大石邸跡までの遊歩道を整備していきます。

2 かさま歴史交流館井筒屋の利活用方法について

【意見等】

かさま歴史交流館井筒屋はこの地域のランドマーク的な役割があると思う。周辺の地域を巻き込んだイベントなどを行ってはどうかと思うが、活性化に向けた今後の利活用方法について伺いたい。

【回答】

いろいろな活用方法ができると思います。市では、大きなイベントばかりでなく様々なイベントなどを行っていくことも活性化に向けて大切であると考え

ています。

例えば、子どもを対象にした絵本の読み聞かせイベントやキッチンカーを使った食の提供、先日開催した JR 東日本のクルーズトレイン四季島の総料理長の講演のような笠間にゆかりのある方の講演会などです。

また、明治元年（1868 年）から満 150 年にあたる今年は、笠間市の明治 150 年というようなイベントを開催して、明治期に活躍した笠間の偉人など紹介する予定です。

利活用については、市の行うイベントはもとより、市民の方自らが自由に利用していただくことが活性化につながると考えています。

3 東海第二発電所の災害時の避難誘導計画について

【意見等】

笠間市の避難誘導計画では、東海第二発電所から UPZ 圏内（30km）の住民の避難は栃木県内の自治体へとなっていて、北関東自動車道を利用して避難するのは効果的であると思うが、何を参考にして作ったのか。福島第一原発の事故の際には風下に逃げてしまったために被ばくしてしまった人もいる。栃木県への避難はそのようなことも考慮して作成されているのか。風向きによってはその方向に避難することができないと思う。

また、笠間市全体が 30km 圏内ではないので全員が避難対象にはならないと思う。UPZ 圏内でない市民が避難したい場合どのように判断すればよいのか。

【回答】

避難誘導計画は茨城県が策定したものが基本になります。市では、30km 圏内で線を引いて避難エリアを決めているのではなく、大字単位で避難する圏内、圏外としています。つまり住んでいるところが 30km 圏外であっても、住んでいる大字の一部が圏内に入っていればその地域は圏内としています。

避難場所については、計画で決まっていますが、事故の状況に応じて判断して避難誘導の仕方が変わってくると思います。30km 圏内だからといって必ず全員が一斉に避難しなければならない訳でもありません。

国でも、30km 圏外についてはまだ指針を出していないので、今後決めていくことになります。

4 防犯カメラの設置について

【意見等】

市内に防犯カメラの設置数が少ないと感じる。特に裏道に行くとほとんどない状況だと思う。登校時は、みんながそろって通学するし、通学路には保護者

や地域の方の協力があり、ある程度安全面は確保されていると思うが、下校時は一人で裏道を帰ることが多い。全国で子どもを狙ったいろいろな犯罪が起きていることから、防犯対策として防犯カメラの設置が必要であると思う。これから増設の計画はあるのか。

【回答】

現在、市内の大きな交差点を中心に防犯カメラが32か所64台(1か所に2台)、県内でもかなり早い段階で犯罪の抑止効果を目的として設置しています。

防犯カメラの増設は、茨城国体開催に伴い、茨城県が一部補助金を出して競技会場周辺への防犯カメラの設置が予定されています。

またご指摘のように、小さな交差点や裏道には設置されていない現状ですが、防犯カメラを設置すれば解決するわけではないですし、防犯カメラだけに頼るのも実質困難であると思います。

今後も市民の皆さんには地域の日やボランティアとして地域の見守りにご協力いただいて、地区全体で防犯対策をしていくことが必要だと思います。市としても通学路の安全対策には対応していきたいと思っています。

5 小児科医など専門医について

【意見等】

市内の医療機関には小児科などの専門医がいないため、子どもが急病になった時など市外の医療機関で受診している。4月に地域医療センターかさまが来たので受診しようとしたら専門医がいないため診察が受けられなかった。どういう状況であるか教えてほしい。

【回答】

地域医療センターかさま内にある市立病院では、筑波大学と連携して医師を派遣してもらっています。しかし小児科の専門医はいない状況です。

市としても市民からのニーズがあることは把握していますが、小児科の専門医を確保するのは困難で十分な対応ができていない状況です。

6 近隣市町との観光における連携について

【意見等】

市が観光に力を入れているのは分かるが、近隣自治体との連携はどうか。それぞれが独自の路線でPRをしていて、横の連携が無いと感じる。横断的な連携があれば観光に来た方が市町を跨いで観光できる。てこ入れが必要であると感じているが、考えを伺いたい。

【回答】

以前から、水戸市と大洗町と観光の協議会を立ち上げて情報交換など連携を行っています。観光客が隣接の市町を回れるような地域間連携を行えば、お互いに観光の発展につながる部分もあるかと思いますが、各市町でPRしたいものや考え方がそれぞれ違う面もあって、連携出来る部分とそうでなく競争する部分があり、横断的な連携は是々非々が現状です。

また近年は、観光する側も行政が推奨したルートを巡ることはあまりなく、思い思いの観光地に行くように変化しているように感じています。横断的なルートの設定をするよりは、いいところをPRしていくことが効果的であると思っています。

昔は、観光といえば笠間と大洗でしたが、今はどこの市町村も観光に力を入れていて、見る観光から体験する観光に変わってきています。

7 笠間つつじ公園と大池公園の景観について

【意見等】

笠間つつじ公園の道路脇に咲いているあじさいの花が道路にはみ出していて、通行する車両が反対車線へでて避けながら走っている。切ってしまうには忍びないので、何らかの対策がとれないか。

また、大池公園のガマの穂の管理があまりされていなく景観が悪い。ガマの穂など水草の必要性は感じないので処分するなど管理の徹底をしてはどうか。

【回答】

笠間つつじ公園の道路横のあじさいの花については、現場を確認して対応していきたいと思います。以前旧笠間市時代にあじさい公園にする計画があつて植樹した経緯があり、そのままになっているものと思われます。通行に支障をきたすようでは何らかの対応を検討していきたいと思います。

また、大池公園は、大雨などの増水に対応した調整池として位置付けており、現行の景観を大きく変える計画は今のところありません。

大池公園は、さくらの時期がかなり綺麗であり、ライトアップするなど状況を見ながら対応していくこともいいのではないかと考えています。

しかし、人が集まるとゴミの問題がでたりするので、管理が必要になってくることも考えないといけません。

8 民泊について

【意見等】

年々増加傾向にある来日外国人に対応するため、民泊が認められるようになったが、市として空家を活用した民泊などを進めていくこともいいと思うが、どのように考えているか？

【回答】

民泊は、市が行うものではなく民間が申請をして進めていくものですので、市としては、民間の方が積極的に取り組んでいけるよう支援する取り組みを進めていきたいと思えます。